

平成28年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校番号

67

福岡県立大川樟風高等学校長 印

(定時制課程) NO.1

学校運営計画 (4月)		評価			
学校運営方針	今日まで本校発展のため鋭意努力されてきた関係各位や在籍された職員意志を継ぎ、生徒を中心とした積極的な教育活動を展開し、「地域を愛し、地域に愛される学校づくり」に職員一同なお一層精励努力しなければならない。そのために、本校の課題を常に念頭に置いて、福岡県の教育大綱に示された「ふくおか未来人材：国際的な視野を持って地域で活躍をする若者」を礎に、大川市唯一の高等学校として保護者、同窓会、振興会さらには大学、中学校、地域団体や研究所等との連携を図るとともに、広報活動及び地域への貢献活動を積極的に推進する。その取組により、ともに将来に力強く羽ばたく学校づくりを目指す。	評価 (3月)			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標			
一人ひとりの生徒を大切に丁寧な指導を行うことで、落ち着いた教育活動を行うことができた。出席率も年々高くなっており、学習意欲も向上している。各種の行事も規範意識や学習意欲、体力等の向上に役立った。家庭事情や心身の健康問題等様々な課題を抱える者も多い。生徒理解に努め、基本的な生活習慣や授業規律の確立と確かな学力の育成、道徳性の涵養が課題である。	1 キャリア教育の更なる充実 (シラバス、進路の手引きの有効活用)	○段階を追ったキャリア教育の推進 ○進路の手引きを活用した積極的な進路指導 ○資格取得に向けての組織的な指導 ○就学、就業の両立			
	2 ICT教育の推進 (授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！)	○ICT機器を活用した授業の工夫改善 ○ICT機器に対するスキルアップ ○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫改善			
	3 魅力ある放課後づくり (部活動と生徒会活動の活性化、資格検定取得)	○学校行事への積極的な参加と生徒会活動の充実 ○部活動の活性化と中学校や地域との交流 ○部活動参加率・資格検定合格者の増加			
	4 自分磨き (挨拶、清掃、ボランティア活動)	○人間としての在り方生き方に係わる道徳性の涵養 ○いじめや差別のない人権教育の徹底 ○安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○礼節指導による規範意識の確立 ○情報交換を徹底し、不登校等迅速で適切な対応の充実			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
教務	授業規律を確立し、生徒の「学ぶ権利」「人権を通じての教育」を保障する	生徒指導部・学年・授業担当者と連携し、授業を受ける態度を養い、「学ぶ権利」を保障する学習環境・雰囲気をつくる。	A	A	B 全学年通して非常に落ち着いた雰囲気で行われている。しかし、不登校生徒および欠課時数を超えなければ良いという意識を持つ一部の生徒の影響で出席率は90%を超えることができなかった。 また、研究授業等で改善を試みたり、家庭や教員間の情報交換も密に行ったが、中途退学者が5名出た。次年度は出席率95%以上、中途退学者0人を目指していきたい。 今年度、調査時間や補講・追考査形態をより効果的となるよう変更を試みた。言語活動・マナー教育だけに留まらず、クラスや生徒の実態に則した指導に変えなければならない場面がある。今後も生徒達の実態に応じて、教務規定を見直したり、弾力的に運用することが必要である。
	理由のない遅刻・欠席・早退を減少させ、出席率の向上に努める。 ※出席率の達成目標を、全学年平均で95%とする	学年・授業担当者と連携し、家庭との連絡を密にし、「授業に出るのは当たり前」という状況をつくる。 進路指導部と連携し、遅刻・欠席・早退の多さが就職試験での不合格につながることを周知徹底する。	B	B	
	「わかる授業」や「共に学び、考える授業」などの授業改善に努め、中途退学者の減少をめざす。	研究授業及び合評会を行い、授業の工夫・改善を行う。 情報交換会や出身中学校訪問、家庭との連絡を密にし中途退学者を0にする。	A	B	
	言語活動・マナー教育の充実をはかる。	授業のみならず、すべての教育活動において、まずは教師自らが率先して言語活動・マナー教育を実践する。	B	B	
生徒指導	積極的な生徒指導を行い、いじめや嫌がらせのない教育環境を創る。	登校時の校門指導や休み時間・給食時などを利用して、積極的に挨拶や声かけを行うとともに、授業中の校内巡視に努め、生徒理解を図る。 生徒会が中心となり、「安心安全な学校、いじめのない学校」づくりに向けた話し合いを行い、生徒への啓発に取り組む。また、「いじめアンケート」「学校生活アンケート」を年11回実施し、生徒の意識や動向を調査・把握する。	A	A	B 全体的に、落ち着いた雰囲気で行われている。始・終業式や講師招聘の行事等の際も、生徒たちは真剣な態度で話を聴くことができている。 また、生徒会執行部も毎月末の「あいさつ運動」や年間を通じての「ごみのリサイクル活動」にしっかりと取り組んでいる。 次年度の課題は、次の通りである。 ①一部の生徒が授業中に携帯電話・スマートフォンを操作しており、これに対する禁止指導を徹底する。 ②部活動への参加を呼びかけ、部活動の更なる充実を目指す。 ③生徒会執行部・各種委員会の活動について、教師主導から生徒主体の活動へと生徒の意識変革を促す。 ④全生徒が参加する美化活動を推進する。 以上の課題を中心に据えて、全職員協力のもとに取り組んでいく。
	授業規律を確立し、生徒同士が共に学び、支え合う関係づくりに努める。	教務部・学年・授業担当者と連携し、授業を受ける態度(教室内の帽子の着用や携帯電話の使用等は禁止)を養い、共に学ぶ授業環境を創る。	B	B	
	生徒の安全確保に努め、学習環境の点検・整備を行う。	全日制・中学校・警察・消防署等関係機関と連携・協力して情報交換及び情報収集に努めるとともに、講師招聘の講話や体験的活動、校外補導等に取り組む。	A	A	
	生徒会を中心に、学校行事を充実させる。	生徒会・委員会活動の充実を努め、学校行事を主体的に企画・運営・評価させる。	B	B	
	部活動の活性化を図り、生徒の県大会・全国大会出場を目指す。	対面式やその他の学校行事の際に部活動紹介と加入を呼びかけ、部活動への参加を促し、部活動加入率60%を目指す。また、従来の部活動の更なる充実を図る。	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
進路指導	卒業予定者全員の進路の実現をめざす。	進路講話やHR等を活用して、将来の進路に前向きな姿勢を持たせ、自己の適性や能力を見つめさせ、適正な労働観や職業観を育て、100%の進路実現をめざす。	B	A	<p>ハローワークと連携を強化しつつ、HR、毎日の授業等を中心とした教育活動の中で、4年間を見据えたキャリア教育を推し進めることの大切さを痛感した。</p> <p>卒業生全員の進路実現はもとより、将来の夢、目標探しに前向きに取り組み、日々の努力を怠らず成長していくことの大切さを伝えていく。</p> <p>具体的課題として、</p> <p>①関係行政機関、雇用主との連携強化 ②定期的な生徒情報交換会議の実施 ③4年間の計画的、継続的なキャリア教育の実践 ④生徒への進路情報提供並びに求人開拓の4点を取り組んでいく。</p>
		総合的な学習の時間に進学や就職のための受験対策講座を設けて学力向上をめざすとともに、全学年において、1学期当初から個人面談等を実施し、進路希望と同時に、コミュニケーション能力の大切さを理解させる。	A		
	積極的な就労促進の取組を行う。	ハローワークからのワークステーションやパソコンを使ったWeb検索などのより多い求人情報を提供しながら、未就労の生徒の就労意欲を高めていくと共に就労の生徒については卒業後の進路について考えさせる。	A	A	
		進路指導補助員やハローワークと連携し、職場訪問を実施し、職場の開拓を進める。	B	A	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒指導部や各学年と連携し、社会人としての挨拶やマナーの指導に努める。	A	A	
保健	安全かつ健康な学校生活を送るため生徒自らの自己管理に努める。そのための保健指導の徹底を図り、健康教室に力を入れる。	安全かつ健康な日常生活を送るために、保健便りを年に6回発行し、掲示板を通して保健情報を提供し、健康や安全に対する生徒の意識の高揚を図る。	A	A	<p>年三回の健康教室(性教育・薬物乱用の防止・食育)については、事前指導を綿密に行い、スムーズに実施することができた。特に食育では、調理実習を家庭科の先生と協力して献立を作成し、事前の準備・指導に力を入れて取りこんだことで食育の大切さを生徒に伝えることができた。残念ながら喫食率については目標には届かなかったが、75.3%(1月末時点)を達成した。また、来年度は保護者の参加を積極的に呼びかけたい。</p> <p>次年度の課題として、保健指導についてはアルコールやタバコの害についても触れていく。さらに、安全かつ健康な生活を送る為、保健便りなどで保健情報を発信し、生徒の保健意識も高めていく。</p> <p>また、生徒保健委員会活動の充実を図り、委員会の活発化を目指す。特に家庭に問題を抱えた生徒や特別な支援が必要な生徒については、担任と連絡を取り全職員が協力し、継続した指導を提供するとともに、健康相談の充実も図っていく。</p> <p>必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや訪問相談員の専門的な支援を受け、希望する生徒・保護者との相談を設定する。</p> <p>次年度もいじめや差別のない、明るくて楽しい学校作りにもんでいく。</p>
		健康教室(性教育・薬物乱用防止)を計画・実施し、外部講師を要請する。	A		
		アルコールやタバコの害・薬物の害について、保健指導に努める。	B		
	食育の充実を図り、喫食率を向上させると共に、職員と生徒が協力して、調理実習を行う。	給食委員会を年に3回開き、施設設備の点検・食の安全、献立の充実に努める。	A	A	
		食に対して生徒の意識を高めるために給食アンケートを2回実施し、問題点を把握し、献立の工夫を考え喫食率78%以上を目指す。	B		
		生徒同士が互いに声をかけ合い、楽しい雰囲気作りを努める。	A		
	校内の安全点検に努め、教室内外の清掃の徹底を図り、生徒会を中心に学校周辺の美化活動に努める。	調理実習を計画実施し、食事を作る楽しさを味わい、食の大切さを学ばせる。	A	A	
		日常の校内の安全点検に努め、教室内の清掃及び整理整頓に努める。	A		
		生徒会を中心に行うボランティア活動・校外の清掃活動に努める。	A		
	健康相談の充実を図るための職員研修会を行い、必要に応じてスクールカウンセラーや訪問相談員の指導助言を受ける。	日常の生徒の変化に注意しながら、教育相談の充実を図る。	A	A	
スクールカウンセラーや訪問相談員と連携して生徒や保護者の支援に当たる。		A			
日頃より生徒の情報交換に努め、いじめや差別のない学校作りを励み、生徒一人一人を大切に特別支援教育の充実を図る。	日頃より職員間の会話を大切に、いじめや差別を見逃さないように努力する。	A	A		
	特別支援の必要な生徒に対して、個々に応じた指導の方策を全職員で考える。	A			
研修	指導力向上のための職員自己研鑽研修を充実させる。	定時制職員研修会の充実を図る。	A	A	
		全・定合同の職員研修会の実施に向けて、内容、日程の調整を図る。	A		
	生徒の学習意欲の向上を図る授業の工夫をする。	職員会議で実施している生徒情報交換を職員研修の場と位置づけ、学習意欲の向上に向けた授業の取組に有効活用する。	A	A	
		授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、よりよい授業づくりの参考とする。	A		
	研究授業を実施するとともに、その後の定時制全職員による研究協議の充実を図る。	A			
図書	目と耳から活字に親しむとともに映像などを活用し、図書に親しませる。	「読書の日」などをきっかけにいろいろな書物を紹介し、国語の授業の中でも、読み聞かせや朗読の時間を設ける。	A	B	
	図書室利用を活発化させる。	生徒が読みたい本のアンケートや各先生の推薦される本の購入を行い、図書室利用を活発化する。	B		
	自分の考えや思いを言葉や文字で表現できるようにする。	進路指導部と連携し、自分の進路希望を実現するために採用試験や、入学試験に向けた、学力や表現力を身につけさせる。	B		
情報化推進	学校教育情報の発信を行う。	定時制ウェブページを年20回以上更新する。また、全日制ウェブページと連動させ、全日制職員と協力していく。	A	A	<p>「学校開放講座」パソコン講座において地域住民の方々に広報活動を行い、本校の魅力を継続して伝えていく。</p> <p>また、地域に向けウェブページを通して、学校行事や生徒の活動状況等、学校活動等の広報の充実にも努めていく。</p> <p>他に、職員のニーズに応じた情報に関する研修の充実として、定時制課程主催の講座を来年度も実施するよう努める。</p> <p>*WP更新回数 2月21日時点 35回</p>
	「樟風教室パソコン講座」において地域住民の方にPR活動を行う。	「樟風教室パソコン講座」は全職員・生徒で開講し、地域住民の方に学校のPR活動を行う。また、内容は文書作成ソフト・表計算ソフトを主に行う。	A		
	職員のニーズに応じた「情報」に関する研修を行う。	情報機器や情報に関する職員研修会を年1回以上実施し、ICT機器を活用した授業及び校務用パソコン活用の充実を図る。	A		
	危機管理の意識付けを行う。	情報機器利用者にデータ管理・ネットワーク上の諸問題について説明し、危機管理の徹底を図る。	A		

(定時制課程) NO.3

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
人権同和	いじめをしない、許さないという人権意識を高める。 本年度も差別事象0件を目指す。	学期1回の「いじめアンケート」で実態把握に努め、特設授業では、生徒が積極的に参加できるように工夫する。また、気になる生徒の情報を早く全職員で共有し、いじめや差別のない学校をつくる。	A	A	A いじめや差別発言等の人権侵害の事案は無かった。全体的に安心・安全な学校生活を送れる体制になっている。 しかし、学校生活アンケートでは、学校に行きたくないという生徒もおり、学校へ来ることの意義や学ぶことの大切さを、再考するような指導を工夫していきたい。
	自他を大切に、社会に目を向けて生きる力を養う。	進路指導部と連携して、労働の意義や役割や社会保険・年金等について考えさせる。	A	A	
	「あおぞら」「かがやき」の指導案等を活用した特設授業を定期的実施する。	情報化推進委員会や生徒指導部、各担任と連携して、教材を用いながら正しい人権感覚・人権意識を身につけさせる。	A	A	
1年	定時制で学ぶ意義を十分に理解させるとともに、基礎学力を定着させる。	それぞれが定時制で学ぶ意義を考え、授業担当者と連携して、社会に出る上で必要な基礎学力の定着・充実を目指す。	B	B	B 78%の生徒にアルバイトを経験させることができ、就業に向けての意識の高揚を図ることができた。年間を通じて継続させる事が次年度の課題である。 授業への参加意識はまだ、不十分で遅刻・早退や欠席も多く、学ぶ意義について継続して指導・助言していく必要がある。家庭との連携は良好であり、次年度以降も継続して連絡を密にし、クラス全員の進級を目指す。 資格試験や部活動等に挑戦させることで、学校生活で充実感や自己肯定感が味わえる場を多く提供し、積極的に登校が出来るようにする。
	キャリア教育を充実させ、卒業後の進路について意識の高揚を図る。	個人面談やHR等を活用して、進路意識の高揚を図り、早期の目標決定を促す。進路実現に向けて、正しい生活習慣の定着を促す。	B	B	
	出来るだけ多くの生徒が就業するように取り組む。	進路指導補助員やハローワークのジョブサポーター等と連携・協力して、「働くこと」を意識させる。また、進路指導部による「進路希望調査」を活用する。	A	A	
	第1学年全員の進級を目指す。 (中途退学者0を目指す)	家庭との連絡を定期的に行いながら、遅刻・欠席等が極力減るように、早期の指導をする。また、授業担当者と連携して、出席状況・授業態度・課題の提出状況等を把握し、指導する。	B	B	
2年	基本的な生活習慣を確立させる。	個人面談やHR等を活用して、生徒の現状を把握する。その上で、将来を見据えた目標を持たせ、充実感に満ちた学校生活が送れるよう指導する。また、授業だけでなく給食指導など、規則正しい生活の確立や安心して学校生活が送れるよう配慮する。	B	B	B 就業や集団生活が非常に困難な一部の生徒を除き、全員が規則正しい生活習慣が確立しており、基礎学力、就業率も高い。しかし、全体的に欠席、遅刻、早退が多いという課題が残った。無気力、無関心や将来への希望を見出せない生徒もおり、クラスで協力することの大切さや、将来の目標や意識づくりを今後も心がけていく必要がある。 日頃から障がいに対する指導を行ってきたこともあり理解度は高い。障がいを抱えた生徒の言動やその対処法を、今後も保護者およびSC、SSW、病院とともに模索していく必要がある。
	基礎学力を定着させる。	授業担当者と連携し、中学校の復習だけでなく、社会に出る上で必要な基礎学力の定着・充実を目指す。	B	B	
	年間就業率80%を目指す。	進路指導補助員やハローワークのジョブサポーター等と連携・協力し、「働くこと」を意識させる。また、進路指導部による「進路希望調査」を活用する。	B	B	
	クラス全員の進級を目指す。	家庭との連絡を密に行いながら、遅刻・欠席等が減るように指導をする。また、授業担当者と連携して、出席状況・授業態度・課題の提出状況等を把握し、指導する。	A	A	
3年	基本的な生活習慣を確立させる。 (皆勤・精勤賞の各1名受賞を目指す。)	個人面談やHR等を活用して、生徒の現状を把握し、2年後の進路を考えさせ、進路実現に向け、充実感に満ちた学校生活が送れるよう指導する。	A	A	A 退学の意思があり長欠していた生徒を除けば出席率は90%を超えており、基本的な生活習慣は確立されつつあると思われる。 また、最終的に就業率は100%となり、今年度の目標を超えることができた。今後の課題としては、就業率100%の継続及びクラス全員の進級である。その課題を克服するためには、就労指導の充実に努め、基礎学力の向上にも努めていく。 また、キャリア教育を推進し、卒業後の進路実現へ向けて意識の高揚を図る。
	基礎学力を定着させる。	授業担当者と連携し、社会人として必要な基礎学力の定着・充実を目指す。	A	A	
	年間就業率90%を目指す。	進路指導補助員やハローワークのジョブサポーター等と連携・協力し、「働くこと」を意識させる。また、進路指導部による「進路希望調査」を活用する。	A	A	
	クラス全員の進級を目指す。 (中途退学者0を目指す)	家庭との連絡を定期的に行いながら、遅刻・欠席等が極力減るように、早期の指導をする。また、授業担当者と連携して、出席状況・授業態度・課題の提出状況等を把握し、指導する。	B	B	
4年	9月までに進学先・職種を決定させる。	オープンキャンパスに参加する。前年度求人票を活用して、職種や給与の実態を知る。	B	B	A 全員卒業と出席率90%は達成できたが、もう少し遅刻対策を行う必要があった。 進学希望の2名は希望が叶ったが、就職に関しては1名が決定できなかった。就業体験は全員行っているが、将来設計について1年次より考えさせる必要がある。
	卒業100%を目指す。	授業担当者と連携して、出席状況・授業態度・課題の提出状況等を把握し、指導する。2学期までに各教科年間平均40点を超えさせる。	A	A	
	就職・進学率100%を目指す。	能力・適性を分析し、生徒の進学・就職のサポートを行う。	B	A	
	出席率90%を目指す。	保護者と連携し、教育相談や、クラスでの助け合いの充実させる。	A		